



好奇心旺盛なスタッフがめぐります!

京都と奈良を結ぶ奈良街道

往来の人々を見守ってきた常夜灯

井関川大正橋のもとにある火の見やぐら



先月の上狹茶問屋通を南下して、木津川の泉橋架橋跡を見ながら夢想した、奈良街道。渡しのあったころに思いを馳せて、「船賃を払い」、上狹浜から対岸の木津の浜にたどりつきました♪

金毘羅さんと親しまれているお社には住吉大明神も祀られています。すぐ向かいのかつての船宿だった料理旅館「川喜」さんの女将さんは、「昔はすぐ横の川の堤はきれいな桜並木があり、この常夜灯は時の船頭さんらの寄進で設けられたそうで、もう少し、木津川近くにあつたらしいですよ」と、お話し頂きました。木津の渡しのあった頃、常夜灯は目印となって、往時の人々の往来をすいぶんと助けてくれたのでしょうか。



スケッチの後は、JR学研都市線の本町踏切を渡り、南下していくと古川モータースさんあたり。出格子や虫籠窓を備えた旧家が立ち並び、ますます街道の雰囲気が伝わってきます。

ちょうど秋祭の木津御輿祭が始まる前で、祭りののぼりとともに鯖寿司の予約販売のお知らせなどがあつたり、いまも秋の収穫を祝う行事が続いているんですね。



料理旅館 川喜

定休無(年末年始休み)
木津川市木津町西垣外78
要予約0774-72-0013

自転車を押しながら歩いていると、花のお世話をしている、むかへし、京都鷹ヶ峰の光悦村から木津に嫁いできたおばあちゃんとちょっとおしゃべり♪

「夏ともなると、木津川で川遊びをするのが楽しみですね…。渡しのあったころはとても賑やかで、カフェーなんかもあつたんよ」と、賑わいのあった本町通りの懐かしい暮らしを嬉しそうに話して下さいました。このあと、さらに南下して…

信号の交差点は旧国道163号線と交わるところ。紙芝居でおなじみの一心堂さんの横を歩きます。

井関川手前に懐かしい郵便ポスト、その先の井関川に架かる大正橋のたもとに、ひときわ高くそびえるのが、今は珍しい火の見櫓です。このあたりからも、意匠を凝らした旧家が立ち並び、時折、かわいい乗り合いバスが通過してきます。

金木犀の香りがどこからともなく漂い、高い秋空とともに、気持ちのよい時間が流れれる街道風情が続きます♪

飯田陶磁器店さんのぞくと、懐かしい火鉢があったり、ちょっと時代を感じるくらいの器があつたりで、思わぬ発見にうれしくなりました♪ 今度ゆっくり伺ってみることにします。

さて、曾根米穀店さんあたりで、少し街道を離れ井関川の堤防へ上がります。

遠くに開発途中の住宅地となる山が、地肌を見せていています。今は珍しい人口増加地区の一端を垣間見ながら、私の目は北へ、東へ、南へ、西へと360度ぐるり回ります。井関川にかかる城戸橋(じょうどばし)の眺めを楽しんで再び街道歩き。いすみホールの看板を越え、国道163号バイパスの下をくぐり、目の前の奈良まで6kmの大谷交差点手前の公園に鳥居とともに4mを超える様な大きな常夜灯に出会いました。これまでに見た常夜灯の中でも最大級! 金毘羅さんの常夜灯に始まり、この大きな常夜灯で今月の探検は終わりますが、1kmに満たない今回の奈良街道、往時の風情に思いを寄せながら、おしゃべりも楽しかった探検でした♪



めぐまれた木津川の流れ。東大寺大仏殿などの寺院建立のための木材が近隣各地より、ここ木の津に集積され、この街道を行き交い、そのにぎわいとともに集落が形成され、江戸時代には、商業地として物資の集散を繰り返し発展した奈良街道。秋の散策に歴史の道を訪ねられてはいかが?



木津川の常夜灯は4mを超えていた、この街を歩く人々に心地よい思い出をもたらす大型の常夜灯、夜間、大きな目印となって往来の人々を勇気づけたのでしょうか。

ASA木津のまかない料理♪

ASA木津スタッフ 市川

さわやかさ満喫!

ブルーベリーヨーグルト・シェイク



作り方

(1)ミキサーに用意した材料を全部入れて、お好みの固さにしてください。

※他のお好みの果実でも構いません。

※甘いのがお好みの方は、アイスの量を増やしたり、お砂糖を加えてもOKですよ~♪

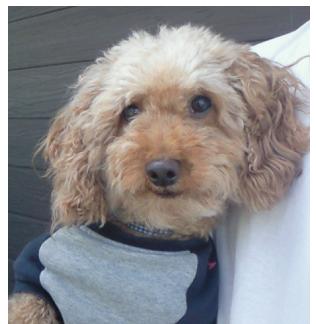
ASAスタッフ日記

秋の行楽シーズン到来♪



ASA精華 山田

みなさんいかがお過ごしでしょうか。いよいよ紅葉がきれいな時期を迎えました。我が家家のブルーベリーやツツジたちは、まだ色づかず、例年と比べて少し遅いなと感じています。やはり今年の猛暑の影響ですかね~? また、今月は各町内のお祭ですね。毎年、こどもたちの歓声に元気をもらいます。広場では農家の方々が採れたての農作物を安く販売してくれます。いや~、今年も楽しみだなー。秋よ深まれー



ピースくん(5歳・オス)

先日、精華町へ引っ越しました! みんなお友達になってね♪

■精華町菅井 梶尾さま

会いませぶ

